

八王子市生涯学習審議会会議録 (要点筆記)

会 議 名	平成 25 年 2 月 八王子市生涯学習審議会	
日 時	平成 25 年 2 月 26 日 (火) 午後 7 時 00 分～9 時 00 分	
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室	
出席者氏名	委 員	浅野 里恵子、大橋 道代、加藤 一詞、小林 正博、瀬沼 克彰、堀内 進一、 松村 洋子、三浦 眞一、山崎 恵子
	事務局	宮木生涯学習総務課長、串田主査、鶴田主任、 新井学習支援課長、田代主査
欠席者氏名	大神田 久、桑田 孝子、炭谷 晃男、	
議 事 案 件	≪報告事項≫ 1 教育委員会定例会における関連事項について 2 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会について ≪議 題≫ 1 現役世代に対する生涯学習の支援のあり方について	
配付資料名	・審議会委員の意見一覧	
会 議 の 内 容	<p>1. 開 会 三浦会長</p> <p>2. 定足数の確認 出席者 9 名</p> <p>3. 会議録署名委員 大橋委員を指名</p> <p>4. 議事案件</p> <p>≪報告事項≫</p> <p>教育委員会定例会における関連事項について</p> <p>教育委員会定例会の議事案件の中から生涯学習関連事項について報告 (会議次第 2 ページ参照) 報告：生涯学習総務課長</p> <p>【質疑応答】</p> <p>瀬沼副会長 生涯学習総務課で予算額が上がったものはあるか。また、新たに予算がついたものはあるか。</p> <p>生涯学習総務課長 放課後子ども教室のみ増額となった。他の事業はすべてマイナスシーリングで、新規事業はない。部の予算は新体育館の建設と国体事業に集中している。</p> <p>大橋委員 読書感想文コンクール入選者の作品は閲覧できるのか。</p> <p>三浦会長 冊子化やホームページ掲載の準備をしている。冊子化したものは国会図書館に寄贈する。(八王子西ロータリークラブ会長としての立場から説明)</p>	

《議事案件》

現役世代に対する生涯学習の支援のあり方について

配布資料の補足説明

説明者：田代主査

資料1：前回（1月）の審議会での各委員の意見一覧

資料2：各委員の意見を踏まえた学習支援課の提案

- ・現役世代を（1）20～30代前半、（2）30代後半～40代、（3）50代に分け、年代ごとのニーズ、能力、技術に合わせた講座設定をする。
- ・仕事の後でも受講できるよう講座開始時刻を今より遅くする。
- ・講座企画委員に現役世代をより取り入れる。
- ・対象年齢に制限を設け、現役世代が受講しやすい条件を作る。
- ・講座受講アンケートに年齢記入欄を設け、世代ごとのニーズを統計調査する。
- ・講座実施会場を生涯学習センター3館に限らず、市民センターなどに拡張する。
- ・お茶・お花・着付けなど伝統文化的な講座のほか、事務や資格取得など再就職に繋がるスキルアップ講座も追加する、など。

三浦会長 専門家の意見を募る場を作るといふ文言はぜひ答申作成の際にはぜひ入れたい。

瀬沼副会長 賛成である。

学習支援課長 学習支援課の案にある（1）から（3）の年齢設定は便宜であり、生活の中心が仕事である世代全体の課題と捉えて議論いただきたい。

三浦会長 答申作成の際は、年代分けをしなくて作成することになるだろう。

浅野委員 現在の講座企画委員の構成人数は。

田代主査 例年5～6名の応募がある。

浅野委員 将来的に各年代を取り入れるとなると、どの程度の規模を想定しているか。

田代主査 今後年代の区分けによって、構成をどう変えるか検討する必要がある。

三浦会長 純粹に講座企画委員だけで企画をするのか。

田代主査 職員も関わって作業する。実際には全員が集まって企画をするのではなく、講座企画委員に公募企画の選定を手伝ってもらったり、あるいは各委員が1講座企画し、企画案について検討する。

大橋委員 どのような年代の人が企画委員なのか。

田代主査 年配の人が多い。

学習支援課長 今年度は60代の委員が能楽入門、30代の委員が芸者さんを招いての講座で実演等を行い、通常の講座よりは若い世代が集まった。他委員は50代以上が中心だが、ピラティスの講座や、八王子の丘陵に咲く草花について勉強する講座も行った。

浅野委員 講座は全体で200以上あるが、市民委員が企画しているものが6講座とは少ない。

学習支援課長 現在は講座の大半を職員が企画している。その中で市民のニーズをとらえること、講座企画委員が提案した講座を実施すること、委員以外でも提案してもらうことで市民協働としている。

三浦会長 講座の大半を職員が企画するやり方のままいいかどうか。

会議の内容

会議の内容	山崎委員	企画委員が6名というのは少ないのではないかと。講座全体の2割くらいは市民企画でもよいのではないかと。
	三浦会長	委員募集の際に人数制限があるが、よいのかどうか。
	瀬沼副会長	市民協働をより深めるため、公募や企画委員の企画講座を増やす必要があると感じる。やはり企画委員の人数が少ない。
	松村委員	募集の際に若い世代も参加するよう文言を入れるのはどうか。生涯学習コーディネーターなど、別団体と合体しても良いのでは。
	小林委員	学習支援委員には接触していないのか。意見がもらえると思う。
	三浦会長	外部の意見をより取り入れて講座作成ができないのかというのが皆の意見だ。
	堀内委員	好きなことを学ぶのもいいが、本当に必要かどうかという視点も大事。若い世代であれば勉強・資格取得、また上の世代が助言するような講座を望む。
	松村委員	地域が結びつく講座が必要。物づくりで各世代が行う企画にしたらどうか。
	加藤委員	講座企画委員が集まらない根本的な原因は？
	学習支援課長	現在は広報での募集。今後、若い世代の人数を増やすとなると広報方法等を見直す必要がある。
	堀内委員	若いうちは広報をなかなか見ないだろう。
	三浦会長	生涯学習とは、屋外で行うものも含まれるが、屋外での企画は全体の何割あるか。
	学習支援課長	スポーツは別所管になるため文科系で屋内のものが多い。過去のもので、子供向けの八王子まっりの山車の研究、商店街の散策、春の山の草花を観察など年間で2～3講座である。
	三浦会長	生涯学習審議会委員としては、屋内外問わず議論が必要だが、部署が分かれているため現状屋内の活動についての議論になっている。屋内外の活動を総合的に進める機会はあるか？
	学習支援課長	多少の連携はあるが、基本的に両方を統一している組織はないのが現状。
	瀬沼副会長	行政主導で考えればそうなるが、市民主導で考えれば様相は異なる。自分が現在指導に行っている小田原市と厚木市について、生涯学習は市民主導に切り替えた。企画・運営はすべて市民組織(NPO)で、市は委託金を出して講座企画・PR活動・学習相談など、生涯学習センターの運営を市民が行っている。根本的に異なるため、八王子がすぐに同じようにすることはできないが、文科省もその方向で指導している。市民主体で責任をもって行うような提案をするべき。新生涯学習プランでも間違いなくメインの話題となるはずなので、この答申でその芽を出しておきたい。
三浦会長	市民協働をさらに広げ、深める必要がある。一方で行政の区割りを乗り越えた議論・企画決定の場が求められる。行政の区割りを乗り越える審議会・委員会・NPO等がないと市民協働を広げることはできない。若い世代に参加してもらうような大掛かりな組織が必要かもしれない。	
瀬沼副会長	そう思う。	

会議の内容	山崎委員	H26年度からの基本計画にどのようなかたちで載せるのか。
	学習支援課長	生涯学習は「市民がつながる」ことをタイトルにしている。生涯学習とは、自分が学ぶことも大事だが、学んだ成果をほかの人に伝えるなど活かすことが大事。
	三浦会長	少し話が大きくなったが、今回のテーマに絞って話を進めたい。
	浅野委員	子育ての内容のものについては、具体的に子育て世代のための講座であることを明記したほうが良い。
	山崎委員	家庭にいとまわりと繋がる機会が少なくなるように感じる。繋がる場を作ることが必要。前回資料を見て意外と思うのは、若い世代の伝統行事講座への参加率が高い。お正月の迎え方や、着物の着方など、以前は地域社会が教えていたことを講座に取り入れるのはどうか。また、e-ラーニングがあると、直接行けない人が情報を得られる。
	学習支援課長	多摩地区の中で講座を録画し、ライブや後からでも見られるようなシステムを導入しているところがある。
	瀬沼副会長	今の話はネットワーク多摩のことだろう。
	山崎委員	富山ではだいぶ前からやっている。
	三浦会長	情報通信技術が進むと人が集まらなくなるという反面も出てくるが、時間を気にしないで勉強できるe-ラーニングを導入し、どちらでも受講できるシステムにする必要があるだろう。
	堀内委員	通信教育のように人が集まるよう仕向けていくといい。ちなみに講座のアンケートの内容について議論をする会議はどのような形で行われているのか。
	田代主査	少人数職場なので特に会議はないが、希望が多いものは、高い割合で反映させている。
	加藤委員	年齢制限を設けると先にあったが、そもそも人気がある講座は回数や人数を増やすことはできないのか。
	田代主査	講師が対応できる場合は追加で募集をかけるなどの対応はしている。
	松村委員	FAXによる申し込みはできないか。インターネットに移行できていない層のために専用FAXを設けたらどうか。
	田代主査	ホールでの講座は申込数が数百にもなり、当落通知をFAXで行うのは難しい。メールでは一斉送信ができる。
	学習支援課長	様々な事情から、今まで応募は原則往復はがきとしてきた。だが、今のままで良いのかといえば、そうは行かない。現在最先端であるIT化を中心に様々な方法を検討していきたい。
	三浦会長	いちょう塾はFAXでの申込みが可能。市民からすると市民大学の講座はFAXで申込み可能で、生涯学習講座は不可となると疑問がでる。市民サービスの面から考えてバラバラが良いのか。手法を増やすことによって、受講生が増えるのではないか。
瀬沼副会長	電話による申し込みはしているのか。	
田代主査	申し込み期限が終了し、なお空きがある講座について例外的に行っている。	

会議の内容	三浦会長	往復はがきを主として、募集方法が限定されている。これを改善し、申し込みやすくすることで受講者が増えるのではないかとというのが各委員の考えである。
	小林委員	往復はがきによる申込みと広報を中心とした周知方法は年配者向けの手法であり、若い世代が集まらない。それらを変える必要がある。方法として携帯電話やパソコンを使うというのがあるが、1番良いのは生涯学習センターのホームページから申し込むことである。また、広報の方法を見直したほうがよい。
	学習支援課長	ポスター・チラシを設置し若い世代に広まってきてはいる。
	三浦会長	ポスター・チラシはどこに配布しているのか。
	田代主査	公共施設中心である。
	山崎委員	チラシを置いても若い世代は市の施設には行かない。ツイッターは？
	学習支援課長	青年ライブでは市内のライブハウス等にチラシを配布して効果があった。市の組織ではツイッターを使っている所管はないが、将来のツイッターの利用については検討中。
	三浦会長	PR方法を体系的に検討するべき。若い世代まで届いていないから参加が少ない。
	堀内委員	経験上、チラシは置いてあるだけではあまり意味がない。若い世代が比較的集まる図書館の活用も工夫してはどうか。
	三浦会長	家族構成なども多様な中堅層(30~40代)に広めていくためには、どうしたらよいか。
	瀬沼副会長	男女ともキャリア開発について載せるべき。
	大橋委員	QRコードを付けてはどうか
	加藤委員	QRコードの先にあるサイトの充実が必要だ。
	大橋委員	メールマガジンで講座の情報が入るとよいのではないかと。講座の情報を伝えるため様々なツールを使うべき。
	浅野委員	防災メールで講座情報を見たことがあるが。
	田代主査	講座内容が防災に関係あるときに、防災メールに載せたこともある。
	三浦会長	防災メールの話もあったが、市としては個人につながるメディアを有している。様々な方法で個人の手元まで行くシステムが必要。
	山崎委員	ポスター・チラシをコンビニ掲示してもらおうとよいのでは。
	加藤委員	掲載する・しないは店舗によるのではないかと。
	三浦会長	各町会の掲示板への掲示など町会に協力してもらおうのはどうか。
田代主査	青年ライブでは町会を活用したが、町会連合会では市からの配布物の多さに苦慮するという話もある。年間200講座を周知するのは難しい。	
三浦会長	1講座についての案内は難しいと思うが、1か月分ずつくらいであればどうにかできないのか。	
山崎委員	八王子テレメディアはどうか。	
田代主査	テレメディアでの放映は現在行っている。	
加藤委員	学校等のホームページでリンクを載せることが、子育て世代には見やすいのではないかと。だが、リンク先がどうなっているかが問題だ。	

会議の内容	<p>瀬沼副会長 今日プログラムの内容や周知に論議が偏っているが、現役世代を取り込む手法として市民協働やNPOの論議を重視したい。これは事務局まかせでなく、われわれ委員も考えたい。講座の募集は企業も対象とし、従業員を受講者に推薦してもらうという方法もある。企業内教育を補う新しい役割があってもよいのではないか。また、学習成果の評価や受講講座を1冊にまとめるパスポート制度を導入している例もある。現役世代にとっては学習の成果が評価されることも重要だ。</p>
	<p>三浦会長 今回は用意された資料をもとに討議しているが、次回以降この話を踏まえて討議したい。</p>
	<p>生涯学習総務課長 本日出し切れなかった意見は事務局に送付いただきたい。</p>
	<p>三浦会長 50代の支援についてはどうか。</p>
	<p>山崎委員 50代は学び直したい気持ち、今まで積んできたキャリアを誰かに伝えたい気持ちが強いのではないか。</p>
	<p>加藤委員 一番動ける世代であり、自分で趣味や活動をしている人が多く、逆に人を集めるのが難しいのではないか。</p>
	<p>三浦会長 40代とそれほど変わらないか。</p>
	<p>山崎委員 40代は子育てが終わっていない人も多く、50代とは異なるだろう。</p>
	<p>浅野委員 既婚者を前提とした話に限らず、独身者を想定してもいい。</p>
	<p>三浦会長 新しく学びたい人と、学び直したい人と、それぞれどのように参加してもらうか。また、そのきっかけ作りになるような講座があるといい。</p>
	<p>田代主査 若者向けを狙った講座に50代が多く参加した例もある。</p>
	<p>山崎委員 やはり学び直したい気持ちはあると思う。</p>
	<p>加藤委員 現在の50代はコンピュータ等機械の操作に長けている人が多く、自分で調べる能力は高い。</p>
	<p>瀬沼副会長 その一方で、仕事中心で地域など付き合いがない。</p>
	<p>加藤委員 逆にSNSを利用して、地域を超えてネットワークを作っている。</p>
<p>瀬沼副会長 IT環境で新しいコミュニティを作る企画は、民間の分野で、市が公費を使って行う分野ではないだろう。</p>	
<p>三浦会長 今回の意見を含め、次回も引き続きこの議題の討議をする。次回は3月29日(金)午後7時から生涯学習センターにて開催したい。詳細は別途事務局より通知をする。本日の会議は以上をもって終了する。</p>	
<p>5. 閉 会 (午後9時00分)</p>	

上会議録は事実に相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員

会議の内容